

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870501438
法人名	有限会社 芳光
事業所名	グループホームおくじま
所在地	愛媛県新居浜市北新町12 - 52番地
自己評価作成日	平成27年5月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年6月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>決まり事にとらわれず入居者さんが主体で元気に笑顔で過ごせるように努めている。工夫してレクリエーションを楽しんでもらっている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>歩いて行ける距離に市立図書館があり、週2～3回出かけ大き目の字の本や紙芝居を借りている。季節に応じて桜、つつじ、芍薬等を楽しみに出かけており、春のお花見は、お弁当を手作りして持参された。「パンがほしい」等、利用者から希望があれば近くのスーパーへ買い物に付き添っている。利用者の誕生日には希望をお聞きし、外食や外出できるよう個別に対応している。</p> <p>利用者について、幼少期・学童期・青年期・壮年期・老年期・結婚・子育ての期間ごとに、情報を収集できるようにアセスメント様式を作っており、利用開始時には、ご家族に、どこで、どのように暮らし、交友関係、職業やその当時のエピソード、愛称等を記入してもらっている。職員が考案したゲームを使って「お母さんの名前は？」「出身地は？」等、回想したり、新しい利用者の情報を知ることに取り組んでおり、それらの情報も追加している。</p>
--

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームおくじま

(ユニット名) 和(なごみ)ユニット

記入者(管理者)

氏名 山内 キシア

評価完了日

平成27年 5月 1日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域との関わり、その人らしく笑顔で生活できることを大切に、職員間で理念を共有している。	
			(外部評価) 法人理念「私達は地域の中で信頼されふれあいの出来る施設をめざします。」とともに、事業所独自で年度目標を立て取り組みをすすめている。今年度は、「楽しく生活できるよう状況に応じたケアを行い、皆が楽しめるレクリエーションを考える。」と目標を立てていた。目標は、2～3ヶ月ごとに、職員全員参加のミーティング時に、理念にも照らし合わせてモニタリングを行い、年度末には評価して次年度の目標設定について話し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会に加入し、行事に参加させてもらっている。地域の方が入居されており、デイサービス利用時に会いに来られたりしている。秋祭りには地域の太鼓が毎年寄ってくださる。	
			(外部評価) 回覧板で事業所新聞を回覧してもらっており、地域清掃等には、法人代表者が出席して法人全体で地域とつきあいをしている。地域の幼稚園が主催する餅つき大会や食事会等の地域交流行事に招待され、数名で参加できるよう支援している。5月の子供の日には、地域の子供太鼓台、10月の秋祭りには大人の太鼓台が事業所に来てくれており、お菓子や御花を用意している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方たちとの交流や運営推進会議などで介護の相談を受けたり体験談を聞かせてもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 入居者の様子や認知症についての話をしている。認知症介護を経験された方から話を伺いながらグループホームでの取り組みに意見をもらっている。</p> <p>(外部評価) 会議メンバーの都合に合わせて、第4金曜日の11時から約一時間会議を行っている。会議は居間で行っており、メンバーは利用者の生活の様子を見ながら、事業所からの状況や行事の報告を聞いている。又、会議時には「認知症について」「救急対応について」等の勉強会を取り入れており、メンバーからは、「認知症について知ることによって利用者の状態がより詳しく分かった」等の感想があった。高齢化する地域の現状に、自分達の今後の暮らしについて不安を口にするメンバーもあり、又、地域内で暮らしに困っている高齢者がおられることを話す方もあるようだ。</p>	<p>地域のいろいろな立場の方に会議参加を呼び掛けて、地域の現状や課題を一緒に考えていけるような会議に取り組みたい。いろいろな意見を出してもらえるように、事業所を利用する側にある利用者やご家族等の参加もすすめてほしい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 随時、連絡、相談をしている。運営推進会議にも参加してもらい意見をもらっている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時、市の担当者からは、市内グループホームの取り組み事例の紹介や待機者数の報告、要介護認定調査方法の変更等があれば説明がある。2ヶ月に1回、介護相談員の訪問があり、利用者のお話を聞いて、その内容の報告がある。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入居時に玄関に鍵をかけていないことを家族に説明している。見守りに注意してケアの工夫をしたり、何が拘束にあたるのかを勉強し拘束しないケアをしている。</p> <p>(外部評価) 職員同士声を掛け合い、利用者の動きの把握に努め見守っている。居間に2ヶ所、廊下に1ヶ所カメラを設置しており、スタッフルームのパソコンで見ることができるようになっている。事故が起こった場合の確認のための設置ということであり、現在、確認しないといけないような事例はないようだ。前回の外部評価後、カメラの設置については、利用者や職員、ご家族、運営推進会議のメンバーに意見をうかがったが、「気にならない」との意見であったようだ。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会ミーティングなどで話し合い日常の言葉かけなども注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 必要時家族に制度の説明、情報提供をしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時、項目に沿って説明し疑問点や介護の希望などを確認している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族来所時には必ず声をかけ日常の様子を伝えると共におくじまへの希望や家族の願いを聞いている。市役所の介護相談員さんに入居者さんの要望などを尋ねてもらっている。	
			(外部評価) 毎月送付する書類とともに、利用者の状態報告の手紙を同封している。ご家族に利用者の状態を報告する場合は、できるだけご家族が安心できるような報告に気を付けている。ご家族からは「口腔ケアをしてもらいたい」「水分を多く取らせてほしい」というケアへの希望や「事業所新聞に顔がわかるような写真を載せないでほしい」等の要望があり、それぞれに対応している。居間に貼っている唱歌の歌詞を見たご家族の方が、「これならハーモニカで吹けるから、吹きに来てもいいですか」と申し出てくださり、友人を誘って演奏に来てくれている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 代表者は毎日、入居者、職員と夕食を共にし時間を共有している。毎月ミーティングを行い職員の意見や要望を代表者に報告、対応している。	
			(外部評価) 朝と夕方に行われる申し送りや月1回職員全員参加のミーティング時に、職員は日頃の気付きや改善したい事について話し合っている。利用者の状態等見て、職員から手すりの設置等の提案もしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 人事考課を取り入れ、目標を持って就業できるように努めている。資格取得を推奨し必要な研修に参加出来るよう勤務を配慮している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 毎月勉強会を実施している。外部研修への参加が少なくなっており機会を作って参加していきたい。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 愛媛県地域密着型サービス協会の研修や新居浜市地域密着部会に参加しケアの勉強をしている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 家族、担当のケアマネから生活の様子を聞き、入居前に本人とも面談し話している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の困っていることをよく聞き、ホームでの対応について話し合っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族の思いに添えるよう柔軟な対応を心がけ、担当のケアマネとも連絡をとっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 生活を共にしているという思いで一緒に過ごしている。お互いに感謝し合う気持ちで接し常に「ありがとう」という言葉かけをしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日頃の生活の様子を伝え、本人が不安な時は会いに来てもらう回数を増やしたり、電話で話してもらったりしている。入居当初は早くおくじまに慣れてもらうために面会の回数を多くお願いしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族がよく外出、外食に誘ってくださっている。馴染みの美容院を利用されたり、御主人のお墓参りに外出されたりしている。 (外部評価) 毎月理髪店に通っていた利用者の方は、入居後はお隣にある理髪店を利用しており、ご本人が「もうそろそろ行きたい」と希望する時にお連れしている。店主とも顔なじみになっており、散髪後は事業所玄関まで送ってきてくれる。外国に住むご家族に季節ごとにカードを送る方には、文字を書くことをサポートして続けられるよう支援している。お孫さんから届いたカードや写真を居室に飾っていた。利用者に親しみのある新居浜弁で作られた鶴の恩返しの本を職員が読み聞かせすることもあった。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員を交え一緒に時間を過ごしてトラブルにならないように配慮している。皆さんに声掛けしてゲームや体操を楽しんでいる。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居時は今までの生活の様子や支援の状況を情報提供して、同じようなケアで生活が続けられるように支援している。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) センター方式の記録を一部取り入れ「本人の思い」を把握できるように努めている。その思いをケアプランに反映するよう心がけている。 (外部評価) 利用者について、幼少期・学童期・青年期・壮年期・老年期・結婚・子育ての期間ごとに、情報を収集できるようアセスメント様式を作っており、利用開始時には、ご家族に、どこで、どのように暮らし、交友関係、職業やその当時のエピソード、愛称等を記入してもらっている。職員が考案したゲームを使って「お母さんの名前は?」「出身地は?」等、回想したり、新しい利用者の情報を知ることに取り組んでおり、それらの情報も追加している。センター方式の「私の気持ちシート」「私の出来る事できない事」等も用いて情報収集している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に家族やケアマネから生活歴やサービスの利用状況を聞いている。入居後も折に触れ本人からも話を聞いている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活のリズムに合わせて出来ることに着眼しながらスタッフも一緒にすることを心がけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			(外部評価)	
			利用者の出来ることや出来そうなことに目を向けて目標を立て、3ヶ月で達成出来るような計画作成に取り組んでいる。目の不自由な利用者には、耳で楽しむような場面作りに工夫した計画を作成していた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入居までの主治医に診てもらっている。必要に応じ往診や協力医を紹介し医療機関に情報提供しながら適切な医療が受けられるように支援している。	
			(外部評価) 緊急時以外の受診は、ご家族で対応してもらうようになっており、受診日は事前に手紙や来訪時に伝えている。薬等、ご家族が不安に思っているような場合は、職員がお話を聞いて主治医に相談等して支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護師が常勤しており日常の健康管理をしている。血圧や認知症の症状など主治医に情報提供している。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時は介護要約を病院に情報提供し医療連携室とも連絡をとり相談している。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に重度化、終末期への取り組みについて説明している。重度化が予想される場合は早めに家族、主治医と相談し本人、家族の希望に応じケアしている。ターミナルケア後は職員間で振り返りをしターミナルケアの話し合いの機会にしている。	
			(外部評価) 重度化や看取り支援について、ご家族には、事業所で、できる事できない事を説明しており、さらに必要時期に再度説明して要望等を聞いている。この1年間に4名の利用者の看取りを支援した事例がある。内3名は「事業所で最後まで過ごしたい」と希望があり、1名は「何かあった際は病院」と希望していたようだ。看護師資格を有する管理者は、利用者のその時々々の状態をご家族に説明し、時には泊まることもできることを伝えて、利用者と一緒に過ごせるような機会作りに配慮された。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救急車の依頼や応急処置マニュアルを作成している。日頃から勉強会で対応について話し合っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルを作成し年2回避難、消火訓練をしている。訓練に参加できなかった職員もミーティングで確認、検討をしている。近くの職員、地域の方にも協力を依頼している。	
			(外部評価) 消防署や契約している防災システム会社立ち会いのもと、年2回、夜間の火災想定で避難訓練を行っている。事業所は建物内の2階部分に位置しており、火災時は階段やエレベーターは使用せず、まず駐車場に面したベランダに避難させることを申し合わせている。	利用者、職員の安心や安全に向けて、立地条件や利用者の状態に応じた避難訓練を重ねていかれてほしい。地域の中での事業所の役割等についても話し合い、地域と協力し合えるような体制も作っていかれてほしい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日頃の個々の入居者さんへの声掛けの仕方ケアの仕方をミーティングで検討している。言葉遣いに注意するよう心掛けている。	
			(外部評価) 利用者によっては、ご家族からの要望等により、事業所新聞への写真掲載を控えているようなケースがある。事業所内への写真の掲示についても同様になっている。職員は、利用者の居室に入る際には、利用者ご本人に許可を得るか、一緒に入室するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 一人ひとりに合わせた声掛けをし、したい時にしたいことが出来るように心がけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 基本的な一日の流れはあるが、時間の制約はなく自分のペースで過ごしてもらっている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自分の好みの服装をしており、指輪をつけたりおしゃれを楽しまれている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 入居時に嗜好調査をし、嗜好に合わせた献立作りをしている。下ごしらえをしたりおやつと一緒に作って楽しんでいる。歯のない方が多いので食べやすいよう注意している。	
			(外部評価) 献立は毎月職員が交代で立て、事業所で調理している。もやしの根切りや豆の筋取り等の下ごしらえは、利用者が行えるよう支援している。野菜や魚は注文して配達してもらっており、その他は職員が買い出しに行っている。ソース系の食物がお好きな利用者が多いようで、ホットプレートを使用してお好み焼やたこ焼き等を焼くこともある。目が不自由な方はお皿を手を持って食事することから、軽い食器を用意していた。調査訪問日は、お誕生日の方のリクエストでちらし寿司を作っていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食、食事量を確認し健康に注意している。食事、水分摂取が少ない時は本人の嗜好に合わせた食品にしたり持ちやすい食器に変えたりして工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後一人ひとりに応じた口腔ケアをしている。なるべく自分で出来るように声掛け見守りしながらしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>一人ひとりの排泄状況に合わせてさりげなく声掛けしトイレに誘導している。状況に合わせてショーツ、紙パンツなどを使い分けている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>足や腰の痛みのある方でトイレに行く回数が多いような場合は、夜間居室にポータブルトイレを用意して支援している。排泄チェック表を付け、確認しながらトイレで排泄できるよう誘導等しており、職員はサポートの必要な部分のみ介助している。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>水分摂取に注意し乳製品を取り入れたり食物繊維がとれるようにポカリ寒天などを用いながら便秘予防している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>本人の希望を聞きながら入浴している。その日の体調に合わせて、声掛けのタイミングを見はからったりして入浴してもらっている。見守りで入浴出来ている方もおられる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>午後からが入浴時間となっており、13時にバイタルサインの測定を行い、1日3名程度、個々に週2～3回入浴できるよう支援している。入浴を拒む方には無理強いせず、時間において再度声かけすると入浴につながるようなこともあり、入浴後には「気持ちよかった、ありがとう」と笑顔が見られるようだ。湯温も好みに合わせている。冬至にはユズを湯船に浮かべ、入浴を楽しめるよう工夫している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>自分のペースで過ごしてもらいつつ昼夜逆転にならないよう体操やゲームに誘い活動時間をもっている。安心して眠れるよう室温、布団など環境づくりに注意している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の内容がわかるよう一覧表にしている。内服変更時は日誌に記録し情報共有している。便通調整に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 掃除機かけや縫い物、花の水やりなどその人が得意であったり好きなことを職員と一緒にしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 近くの図書館に散歩して本を借りるのが習慣になっている。季節の花を楽しんだり、おやつを買いに外出したり、家族の協力で自宅に外出したり外食を楽しんでいる。	
			(外部評価) 歩いて行ける距離に市立図書館があり、週2~3回出かけ大きな字の本や紙芝居を借りている。季節に応じて桜、つつじ、芍薬等を楽しみに出かけており、春のお花見は、お弁当を手作りして持参された。「パンがほしい」等、利用者から希望があれば近くのスーパーへ買い物に付き添っている。利用者の誕生日には希望をお聞きし、外食や外出できるよう個別に対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 入居時に本人の希望に合わせて家族と相談している。自分で財布を持っていたり、預かったり臨機応変に対応している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望時に電話をかけている。アメリカから定期的に電話がありカードを作りお孫さんとエアメールの交換を楽しんでいる方もおられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 外出時の写真や花を飾り季節が感じられるようにしている。入居者と相談しながらベランダで花や野菜を育て、手入れや収穫を楽しんでいる。室温、湿度に注意し換気を心がけている。	
			(外部評価) 共用部分は、職員が毎朝モップ等で掃除している。調査訪問時には、職員が自宅から摘んで来られたあじさいがテーブルに飾ってあった。又、壁には、折り紙で作ったあじさいを飾っていた。居間から直接出られるベランダには、プランターにトマト・マメ・キュウリ・ネギを植えており、利用者と一緒に収穫して調理に使用している。プランターに何を植えるかも利用者と相談して決めている。居間の一角には、畳スペースがあり、横になって休む利用者もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) フロアに雑誌や歌本を置き、ソファや畳コーナーなど自分の好きな場所で過ごされている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居時に馴染みの物を持って来てもらうよう声掛けしている。写真やタンス、椅子など好みに合わせて置いている。おくじまでの写真や自分で塗った塗り絵などを飾っている。	
			(外部評価) 明るい色がお好きな利用者は、オレンジ系の大きな花柄のカーテンや明るい華やかな布団カバーをご家族が用意していた。仏壇を持ち込んでいる方は、ご自分でお水等を供えている。ご自分で掃除ができるような方には、促したり職員と一緒にいたりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 建物はバリアフリーで手すりがついている。状況に合わせて手すりを追加したり危険箇所を改善している。	